

## 短期大学在学生の子育て像

—親の子育て像との比較をとおして—

仲野 悦子・林 秀雄・野々村千恵子

### **Research on Students' Views of Child-Rearing**

**—Comparing Students' views with Parents' ones—**

**Etsuko Nakano · Hideo Hayashi · Chieko Nonomura**

This study contains results of a survey conducted to compare students' views of child-rearing versus parents' ones. The results of this investigation are summarized into the following points.

Almost all students have the same views regarding child-rearing. Two points, i.e., the way parents and child interact, and how meals are managed are clearly different from parents' views.

Received Oct. 31, 1997

Key words : child-rearing, view of child

#### 1. はじめに

児童福祉法が昭和22年に制定されて半世紀が過ぎようとしている今年「児童福祉法等の一部を改正する法律」が6月3日可決・成立し、1998年4月1日付けで施行されることになった。「子どもの権利条約」が批准されてから初めての子どもに関する法改正である<sup>1)</sup>。エンゼルプランや魅力のある幼稚園づくりなど子どもを取り巻くさまざまな政策が打ち出され、教育や福祉の分野での現場の対応が余儀なくされている。女性のめざましい社会進出と情報過多や核家族化によっておこる経験のなさは子育て不安として現れ、少子化に繋がっている。安心して生み育てるための少子化対策として多様な保育ニーズに応える子育て支援などが施策として示された。課せられた保育現場にとっては日々戸惑いを常に抱え試行錯誤しながら進めている状況が伺える。保育現場に人材を送り出す保母養成校としても、多様なニーズに応えられる質の高い保育者を養成するためにカリキュラムや授業内容の再検討が今いろいろ

と討議されている<sup>2)</sup>。さらに保育現場との連携の中で保母を送り出すだけでなく、現職保母のバックアップ教育・再教育として研修会を持つことが養成校として大きな一つの役割となっている。

## 2. 目 的

これまでに多様なニーズに対応できる保育者を養成する観点から「子育て観を探る」一連の研究を行ってきた<sup>3)</sup>。家庭や地域との連携および協同は、地方版エンゼルプランにみられる保育の量的拡大に合わせて重要となり、無視できないものである。その中でも保育所地域活動事業として、障害児保育事業・夜間保育事業・老人福祉施設訪問等世代間交流事業・地域における異年齢児交流事業・保護者等への育児講座・郷土文化伝承事業・保育所退所児童との交流・小学校低学年児童受け入れ・地域の特性に応じた保育需要への対応など積極的に推し進めるとともに、保育所がもつ専門的機能を地域住民に活用されることが要請されている。また幼稚園においても「魅力のある幼稚園づくり推進事業」の一環として「預かり保育推進事業」が今年度予算化された。今後機能的にも幼稚園の保育所化や幼稚園・保育所施設の共用化、さらに研修の一本化が施策として推し進められていく状況にある。

このような中で家庭や地域との連携および共同のあり方を検討する資料として、これまでに今現在子育てをしている親と子育てを終えた学生の親の子育て観等を探り報告してきた。本研究において、①本学在学生の子ども像・子育て観・子育て環境を探る、②学生と親の子育て観との比較検討を行うことを目的とした。今後21世紀の保母養成を考えるにあたり、保育者は親の子に対する思いや考え方をより理解しつつ保育にあたることがよく求められている。そこで保母養成の立場から一方的に学生に親の子育て観を知らせるだけでなく、今の学生が持っている子育て観の差異を明かにすることによってより一層効果的な指導ができると考える。

## 3. 調 査 方 法

### (1) 調査対象および調査時期

- ①本学に平成9年度入学した全学科の1年生および教育実習（幼稚園）・保育実習（保育所ならびに施設）

すべてを経験した幼児教育学科2年生の学生を対象にアンケート調査を実施した。1年生の回収率は82.9%、調査時期は

表1 調査対象者

学科 学年	幼児教育 学 科	家 政 学 科			商業経済 学 科	合 計
		養護教諭	食物栄養	生活情報		
1年生	94名	53名	50名	54名	71名	322名
2年生	117名					117名

1997年4～5月である。2年生の回収率は91.4%、時期は1997年9月に行った。

②岐阜県内の5幼稚園（公立2園、私立3園）と9保育所（公立6園、私立3園）に通園する園児の親（1,691名）を対象にアンケート調査を行った。回答者数は、幼稚園児の親984名、保育所園児の親707名であり、回収率78.0%、調査時期は1995年12月に行った。

## （2）質問用紙の内容

アンケートの内容は、①望ましい子ども像（母親としてどのような子に育てて欲しいか）、②子育てで心がけていること（母親としてどのようなことを心がけているか）、③しつけについて（母親として大切と考えるしつけ）、④子どもとの関わり（実際に子どもと関わる内容）、⑤食生活に関すること（食生活の態度や嗜好に關しての考え方）、⑥子どもの欲求の受けとめ方などである。全学年の1年生に対しては、「母親として」どのように考えるかを問ひ、幼児教育学科2年生に対しては、「母親として」と「保育者として」どのように考えるかをたずねた。また現在子育て中の親の数値は前回の調査結果によるものである。各質問項目の詳細については資料1を参照されたい。

## 4. 結果および考察

短期大学生が将来母親として担うであろう子育てに対する意識をアンケート方式により探った。幼児教育学科2年生の学生には母親の立場（以下「母親として」）と保育者の立場（以下「保育者として」）で子育てに対する考えを尋ねた。内容的には（1）育てて欲しい子ども像、（2）日頃の子育てで心がけていること（しつけ）についての考え、（3）子どもとの関わり方、（4）食生活の在り方についてである。

### （1）親として望む子ども像

はじめに「子育てをするときどのような子どもに育てて欲しいか」という質問を10項目の中から2項目選択するように求めた。結果は「⑥思いやりがあり優しい子ども」（1年生全体58.7%、2年生母親として63.2%、保育者として47.0%）を一番多くあげている。2番目は「④明るくのびのびした子ども」（1年生51.6%、2年生55.6%、保育者53.8%）であり、続いて3番目は「③友だちと仲良くできる子ども」（1年生34.5%、2年生35.9%、保育者35.9%）を選択している。以上の3項目

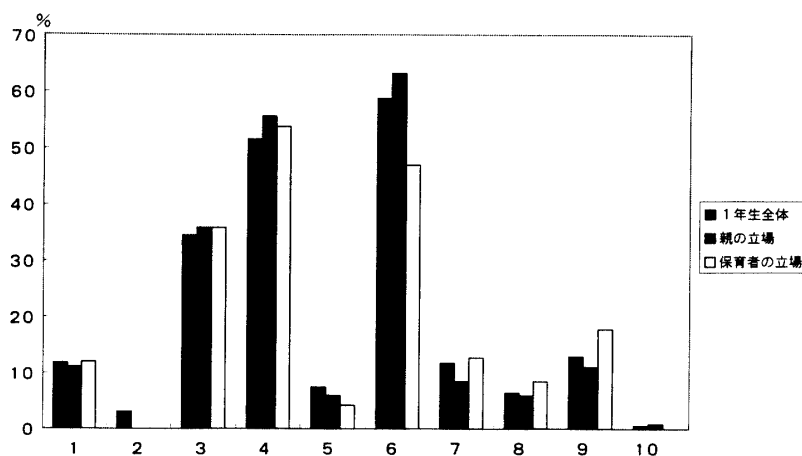


図1 子育て像の比較

が主として望んでいる子ども像であった。4番目に「⑨外で遊び健康でたくましい子ども」（1年生13.0%、2年生11.1%、保育者17.9%）と続く。学生たちが望んだ子ども像は、前回までの今現在子育てしている親と子育てを終えた親の子ども像における調査研究結果と比較しても殆ど変わらない。ただ「母親として」の2年生が4番目に選んだのは⑨項目と①項目である。「自発的・自主的に行動できる子ども」は、子育て中の親も学生と同じように①項目（27.1%）を選んでいる。このことは2年生の実習経験のなかではぐくまれたものと思われる。

反対に数値の低い項目は「②知的にすぐれた子ども」（1年生3.1%、2年生0%、保育者0%）次に「⑧意見のはっきり言える子ども」（1年生6.5%、2年生7.5%、保育者6.0%）、「⑤人に迷惑かけない」（1年生7.5%、2年生6.0%、保育者4.3%）である。そして親が学生よりも育てて欲しいと願う子ども像は「自発的・自主的に行動できる子ども」、「人に迷惑をかけない子ども」、「意見のはっきり言える子ども」をあげ、学生が願う子ども像は優しい心と明るさを備え、だれとも仲良く元気に遊べる子どもである。1年生と幼児教育学科2年生の学生のどちらも望んでいる子ども像は殆ど同じであり、親も含めて全体的に見た場合、知識や感性よりも社会性や人間関係の発達を望んでいる。これまでも報告したように、親として人間性豊かな子どもに育つことを望むことでは、世代間に差異はみられなかった。気になる点としてあげるとすれば、「感性豊かな子ども」の数値が学生も親も低い点である。著しい生活環境の変化によって「感性があぶない」と言われ、「鋭敏な五感や感性がなければ、小さく弱い存在に目が向かず、優しさや思いやりの心を失う」と指摘されている<sup>4)</sup>ように、子ども像として殆どの人が「思いやりがあり優しい子ども」としているとすれば、その時々に見える出来事に対して《感じる心》がなければ、また意識的に育むことをしなければ育ちにくいものになるのではなからうか。

## （2）子育てで心がけていることとしつけについて

「子育てをするときどのようなことを心がけているか」という質問を16項目の中から4項目選択するように求めた。

学生が日ごろ子育ての心がけて最も大切と思う項目は「⑨あいさつをさせる」（1年生56.8%、2年生54.7%、保育者57.3%）を一番にあげている。「あいさつ」は子育て中の親（61.3%）や子育てを終わった親（57.1%）も高い値で大切にしており、生活の基本としている。次に

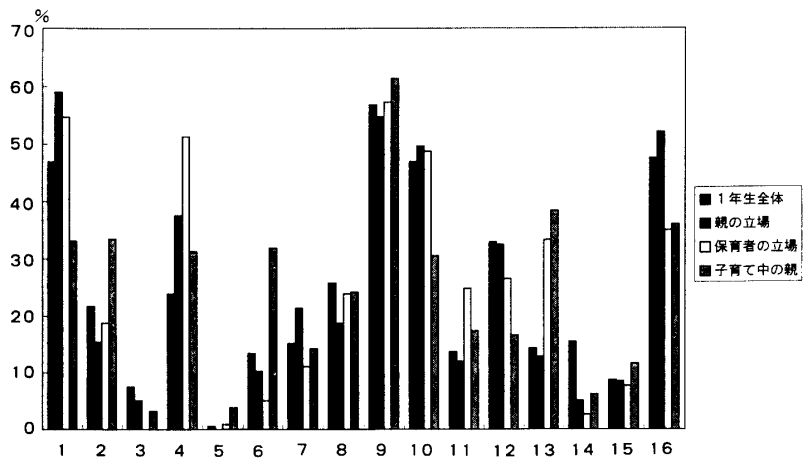


図2 心がけの比較

「⑩子どもと毎日話し合うようにする」(1年生47.5%、親36.0%)、「①子どもとできるだけ一緒に遊ぶ」(1年生46.9%、保育者54.7%、親33.1%)、「⑩子どもの気持ちを大事にする」(1年生46.9%、2年生49.6%、保育者48.7%、親30.5%)をあげ、子どもとの関わりや子どもの立場にたった子育てを大事にしたいと望んでいる。これに対して「⑤テープ・CD活用して情操教育に努めたい」(1年生0.6%、2年生0%、保育者0.9%、親3.8%)、「③ピアノなどのおけいこを積極的に取り組む」(1年生7.5%、2年生5.1%、保育者0%、親0%)、「⑮お年寄りに尊敬の気持ちをもつ」(1年生8.7%、2年生8.5%、保育者7.7%、親8.9%)、「⑭友だち的な接し方をする」(1年生15.5%、2年生5.1%、保育者2.6%、親6.2%)などはあまり意識されていない項目である。また、学生よりも親のほうが心がけている項目は、「⑬後かたづけなどを自分でさせる」、「②しつけは大切なので守らせる」、「⑥家の手伝いをさせる」、「⑨あいさつをさせる」の4項目である。

このように子育てへの心がけを探った結果、学生と学生の親の差異はあまり見られず《子ども側に立った心がけ》となっている。そして親の方が学生よりも実生活にたった心がけとなっている。またお年寄りに尊敬の気持ちを持つ割合が少なかったことは学生の半数以上が核家族で生活している実態の反映ではなかろうか。これらの結果は理想と現実の中で微妙な差が生まれたのであろう。そして、実習を終えた2年生は心がけたい3番目に「④絵本や本などよく読み聞かせる」(51.3%)をあげている。実習中子どもたちに絵本などをよく読み聞かせた経験が反映していると思われる。子育てを終えた学生の親(36.4%)もこの④項目を2番目にあげている。このような結果は実習が子どもと親の関わりや保育者と子どもとの関わり、保育のあり方や親の立場からの子育てを知る上でとても良い経験だということを示している。

これらの心がけていることがらが子どものしつけにどのように関わって現れているかを探るために、しつけを16項目の中から3つを選択するように求めた。心がけの中でも、子育て中の親の33.5%は「しつけは大切なので守らせる」としている。このしつけの中身の一番は「④

あいさつは必ずさせる」(1年生56.5%、2年生41.0%、保育者45.3%、親37.9%)をあげ、次に「⑥物を大切にするようにする」(1年生44.7%、2年生50.4%、保育者62.4%、親60.2%)、3番目は「⑧友だちとは仲よくする」(1年生37.9%、2年生50.4%、保育者58.1%、親56.5%)となっている。そして4番目に

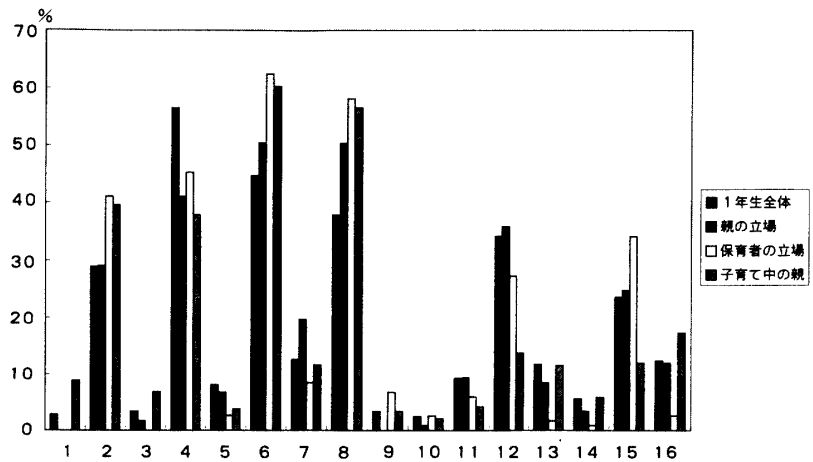


図3 しつけの比較

「⑫外で遊ばせるようにする」(1年生34.2%、2年生35.9%)、「②納得するまで言い聞かせる」(保育者48.7%、親39.5%)となっている。学生と親とでは、このように実際の子育てへの関わり方に微妙な違いが見られる。

「⑩ケンカはすぐ止める」、「①悪いことは体罰を与えても叱る」、「③叱る前に悪戯しないように監督する」は2%前後で極めて少なく、体罰を与えない点や親の管理主義的な面があまり支持されないことにつながるのではないだろうか。

次に子育ての心がけとしつけの関連性をみた。心がけとして「①子どもとできるだけ一緒に遊ぶ」を選んだ学生はしつけの項目で何を選択したかを検討した。結果、「④あいさつをさせる」(51.7%)、「⑥物を大切にする」(43.7%)、「⑫外で遊ばせる」(39.1%)、「⑧友だちと仲良くする」(31.8%)、「⑮一緒に子どもと遊ぶようにする」(31.8%)となっている。

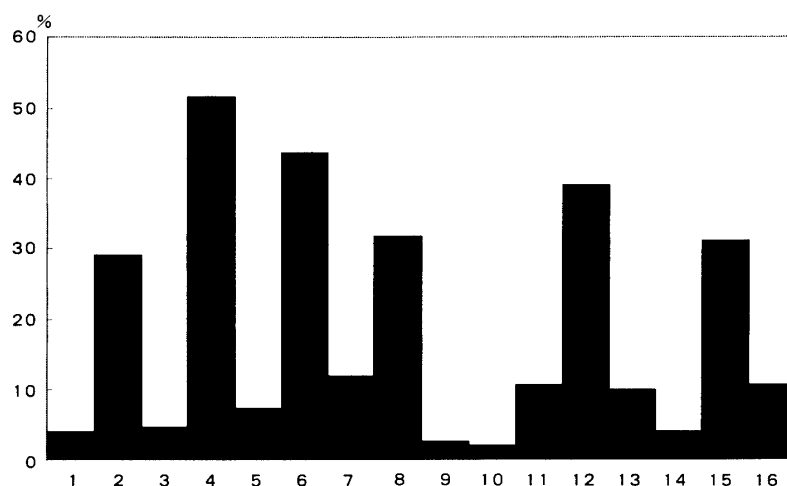


図4 子どもとよく遊ぶ人のしつけ

また他の心がけに関する項目「⑨あいさつをさせることを大事にしたい」、「⑩子どもの気持ちを大事にしてやりたい」、「⑫外で元気に遊ばせたい」、「⑯子どもとは毎日話し合うようにしたい」もしつけ項目との関連を考察した。その結果は心がけ①項目の場合と全く同じように選択していた。しつけについての選択の割合が他の心がけ項目を選択した場合でも有意な差は見られなかった。

子どもの欲求の受けとめ方は、学生も親も殆ど「②欲求は選択して聞いてやる」(1年生61.5%、2年生60.7%、保育者64.1%、親63.2%)を選んでいる。「③欲求はあまり聞かない」や「①できるかぎり汲み取ってやる」は0%に近く、望んでいる子ども像・関わり・しつけなど総合的な考えの中で子どもの要求を受けとめている姿の現われであろう。

### (3) 子どもとの関わり方について

「子どもと実際にどのように関わりたいか」6項目の中から2つを選択することを求めた。この質問項目において、学生と親とでは子どもの関わり方の違いがはっきり現れた。学生に多い項目は「②一緒にスポーツや散歩をしたりする」(1年生66.8%、2年生29.8%、保育者35.9%)であり、特に1年生の学生が多く選択している。一方親が一番にあげた項目は「①一緒にお風呂にはいる」(1年生10.6%、2年生18.8%、保育者0.9%、親69.1%)である。4者の多い項目は「④一緒におしゃべりなどよくお話しする」(1年生78.6%、2年生68.4%、保

### 短期大学在学生の子育て像

育者58.1%、親50.6%)である。「③お話(絵本・本)をしてやる」(1年生29.8%、2年生50.4%、保育者70.9%、親43.3%)は、保育者としての2年生が一番多く、②項目は1年生が一番多い。そして親が選んだ項目は①項目で70%に及んでいる。親が選んだ“一緒にお風呂にはいる”という子どもとの

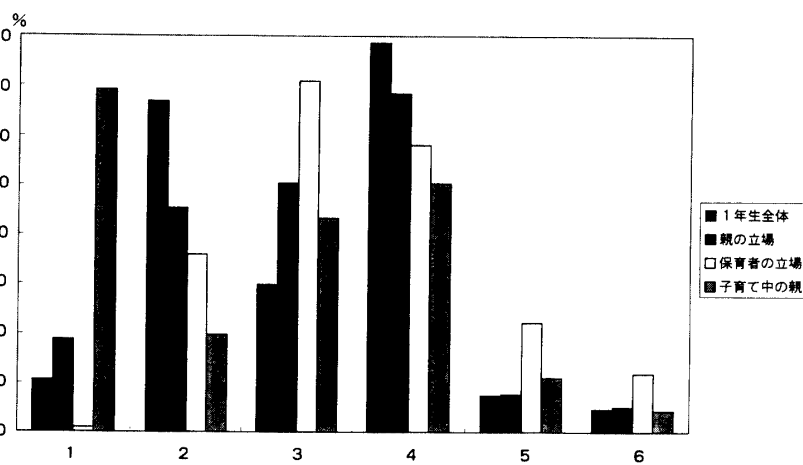


図5 子どもとの関わり比較

関わりは、父親も育児の中で一番参加しやすいものであり、忙しい一日を終えての最後の生活の関わりでもあるが子どもとなごむ良い機会である。親はこの関わりを単に体を清潔にする行為だけではなく、子どもの話を聞いたりしながら一日の様子を探り、裸の体を見ながら視診したりするなど子どもの成長を肌で感じる一時として大事にしている。このように親は子どもとのコミュニケーションやスキンシップを持つことのできる一番の関わりをお風呂に求めている。この親の思いは学生にはつかめていない。幼児教育学科学生はもちろん保育者の立場に立った2年生の学生すらも理解していない。親として一緒におもちゃを作ったり、スポーツなどの関わりはつとめて時間や場所を求めて心がけなければならないことである。「一緒におしゃべりする」は気軽にできる関わりであり「お風呂に入る関わり」は子どもとスキンシップをもつことのできるとても大切なものとしている。保母養成としてこのような親の大事にしている関わりの内容を学生に知らせることはとても大切だと考える。

#### (4) 食生活について

「食生活のあり方、食事内容などの考え」を8項目の中から2つを選択するように求めた。関わり方と同じように食生活においても学生と親との意識の差が現れている。学生が圧倒的に多く選択した項目は「①子どもの成長にとって良いものを作る」(1年生71.4%、2年生76.1%、保育者75.2%、親25.5%)と「⑧食事は家族全員そろってとる」(1年生71.4%、2年生76.1%、保育者40.2%、親37.3%)を選んでいる。多くの親が選択した項目は「⑤いつも決まった時間に食事をとる」(1年生28.3%、2年生25.6%、保育者44.4%、親45.3%)である。「⑧食事は家族全員そろってとる」と「⑤いつも決まった時間に食事をとる」の項目において、選択した割合は1年生と「母親の立場」の2年生、「保育者の立場」の2年生と子育て中の親とに分かれる。「家族全員そろって食事をする」を学生は多く選択し、「決まった時間に食事をとる」を保育者としての学生と親が多く選択している。実際の親と保育者の立場に立った学生が同じ結果になっているのは、実習中に実際の親の生活を垣間見たのか、食事においては同じ項

目を選んだと思われる。さらに学生と親と比較した場合、学生は「①子どもの成長にとって良いものを作る」を選び親は「③特別に献立を工夫することはない」(1年生2.8%、親32.8%)を選び、大きな違いが見られる。

殆どの学生が選択しなかった項目は当然と思われるが

「④大人中心の食事をする」、親が選択しなかった項目は「②好きなものを作る」であった。学生にとっては「子どもの成長によいものを作り、家族全員で楽しい食生活を送る」ことを理想とし、親は「食事の内容・献立よりも食事の仕方・食べ方」を重視している傾向が推察される。

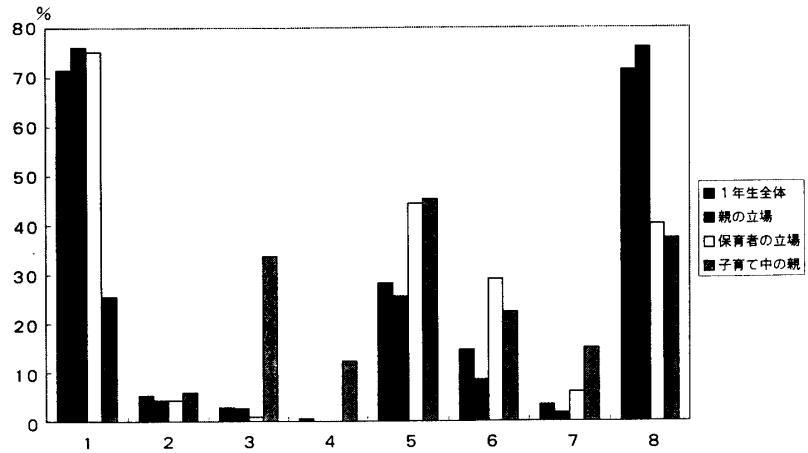


図6 食生活比較

## 5. おわりに

今回、家庭や地域との連携および協同のあり方に対して検討する基礎的な資料として、短期大学生の子ども像・子育て観・子育て環境などを中心に探ってきた。結果として「育てて欲しい子ども像」、「心がけていること」、「しつけ」などは全学科1年生と幼児教育学科2年生とも殆ど同じ傾向であり、知識や感性よりも社会性や人間関係の発達を望んでいた。また心がけていることがらとしつけの関連性を検討しても全く同じように選択していることが分かった。現在子育て中の親が、育てて欲しいと指摘した項目は「自主的・自発的に行動できる子ども」や「後かたづけをさせる」を上げており、そこに実生活や子どもの自立を望む親の姿が伺える。「子どもとの関わり方」や「食生活」においては、学生と親の考えの違いが見られる。親の関わり方では、お風呂に一緒に入ることを重視し、日常生活の中では「おしゃべり」などを上げ、子どもとのコミュニケーションを大切にしている。また実習を経験したり、幼児教育の知識を身につけた2年生は際立ったものではないが、子どもに絵本などをよく読んでやったり、決まった時間に食事をする項目などで親との接近が見られた。これらは実習経験によって現場の保育者から受けた指導や保育の実践が多少とも影響していると思われる。しかし、将来保育者を目指し、実習や幼児教育の知識を学んでも、子育て中の親とは全く同じ子育て観を持つものでなかった。つまり学生が親の気持ちを十分に理解し、保育の場に臨めるために、養成校として学生に対し、親の子育て観、子ども像理解についての指導のあり方を今後検討していく必要性を示しているものといえる。

今後の研究課題として、保育者に焦点をあて、実際の保育の場での親との連携、協同のあ



あり方を考察して行きたい。

## 注

- 1) 改正の背景として状況の変化が上げられる。保育所について言えばまず①国民全体が中流社会で低所得者の延長ではなくなって来ている。②女性の社会進出により就業形態の多様化が起きている。③地域・家庭の保育機能が低下し横の繋がりがなくなっている。④少子化社会への対応など一般化されている機能をより有効にするためとしている。
- 2) 平成9年度全国保母養成セミナーにおいても、シンポジウムのテーマとして「21世紀に向けた保母養成校像を問う」のなかで議論されたように多様な保育ニーズに対してスーパーバイザー的な資質を持つこと、また保母養成校で学習科目の中にスチューデント・スーパービジョンに関するものをいれて欲しいなど保育現場より保母養成校に対しての役割や要望がだされた。このことにたいして養成校として今後どのように対応して行くかが問題となってくる。
- 3) 野々村千恵子他「親の子育て観と保母養成」『保母養成研究第14号』1997 PP.79-87  
林秀雄他「親養育態度と子育て支援」『聖徳学園女子短期大学紀要第29集』1997 PP.65-78
- 4) 日本子どもを守る会編「子ども白書」1996 P.36

## 参考文献

- ・新実陽子他「母親の育児態度とそれに対する保育者の認識－その1 母親の育児態度について－」『名古屋市立保育短期大学研究紀要第31巻』1994.5 PP.150-151
- ・浦崎源次他「母親の育児態度とそれに対する保育者の認識－その1 母親の自己評価と育児態度－」『日本保育学会第48回研究論文集』1995.5 PP.710-711
- ・仲山佳秀他「幼児の養育に関する親の意識－江南市における親への質問紙調査から－」『江南女子短期大学紀要第23号』1994.1 PP.75-81
- ・全国保育団体連絡会・保育研究所編「保育白書」1997『草土文化』
- ・日本子どもを守る会編「子ども白書」1997『草土文化』



短期大学在学生の子育て像

質問8 しつけについて尋ねます。3つ選んで○をつけてください。

- 1 悪いことをしたときは体罰を与えても叱る
- 2 子どもが納得するまで言い聞かせる
- 3 叱る前に、乱暴や悪戯をしないように監督している
- 4 あいさつは必ずさせる
- 5 時期がくればわかるので厳しくしつけたくない
- 6 物を大切にするようにしつける
- 7 お年寄りを大切にしようしつける
- 8 友だちとは仲良くするよう話す
- 9 危険なハサミやナイフは持たせないようにする
- 10 ケンカをしている場合はすぐに止めに入る
- 11 ケンカの仲裁には入らないようにする
- 12 なるべく外で遊ばせるようにする
- 13 テレビゲームなどは時間を区切ってさせる
- 14 親の目の届く範囲で遊ばせる
- 15 なるべく一緒に子どもと遊ぶようにする
- 16 子どもの遊びには口出しをせず好きにさせる

質問9 子どもと実際にどのように関わりたいですか。2つ選んで○をつけてください。

- 1 子どもと一緒に風呂にはいる
- 2 子どもと一緒にスポーツをしたり散歩をしたりする
- 3 子どもにお話（絵本・本をふくむ）をしてやる
- 4 子どもと一緒におしゃべりなどよく話をする
- 5 子どもとおもちゃで遊んでやる
- 6 子どもにおもちゃを作ってやる

質問10 食生活について尋ねます。2つ選んで○をつけてください。

- 1 子どもの成長にとって良いものを作ってやりたい
- 2 子どもの好きなものを作ってやりたい
- 3 特別に献立を工夫する必要はない
- 4 大人中心の食事でも食べさせればよい
- 5 いつも決まった時間に食事はとらせる
- 6 食事は全部食べおわるまで待つ
- 7 子どもの好きなだけの量を食べさせる
- 8 食事は家族全員そろってとる

質問11 子どもの欲求をどのように受けとめようと考えますか。

1つだけ選んで○をつけてください。

- 1 子どもの欲求はできるかぎり汲み取ってやる
- 2 子どもの欲求は選択して聞いてやる
- 3 子どもの欲求はあまり聞かない